

正会員 ○片脇 清、守屋 進、深田幾夫（建設省土木研究所）

## 1. はじめに

海域における鉄筋コンクリート構造物への防食方法のひとつとして、鉄筋に食質の樹脂塗装を施しコンクリート中に浸透する塩分から鉄筋を保護する方法が考えられる。この方法によればコンクリートにひびわれがある場合にも、防食効果が期待できる。そこで、耐アルカリ性に優れた樹脂（エポキシ樹脂）塗料を用いた、塗装仕様が各々異なる塗装鉄筋について、室内実験および長期の海上暴露試験などの一連の試験調査を経て、その実用性を把握する研究を計画した。本報告は、暴露試験に先立ち、塗装鉄筋の基本的性質を知るために行なった室内実験結果の一部をとりまとめたものである。

## 2. 研究の目的

エポキシ樹脂塗装には多くの種類があるが、代表的な塗装系を用いた塗装鉄筋について、温塩水中での耐食性、コンクリートに埋め込み腐食促進試験条件下での耐食性、耐衝撃性、加工性、コンクリートの付着性などの各性状を明きらかにして、防食手段となりうるかを検討する。

## 3. 研究の方法

## 3.1 材 料

1 鉄筋：公称直径が 16 mm の異型鉄筋（SD-30、竹フシ型）を用いた。

2 塗料：エポキシ樹脂塗装 10 種類を用いた。その内訳は次の通りである。

液体エポキシ樹脂塗料（酸無水物系 4 種類、ポリアミン系 1 種類、特殊硬化剤 1 種類）、粉体タールエポキシ塗料（ポリアミン系 1 種類）、溶液型タールエキポシ樹脂塗料（3 種類）、さらに無機ジンクリッヂ塗料（アルカリシリケート系 1 種類）を比較として用いた。

## 3.2 塗装鉄筋の製作

1 下地処理：サンドブラスト処理（Sa 3.0相当）および酸洗い後化成処理の 2 種類。

2 塗装方法：目標膜厚を 80 μ、150 μ、250 μ の 3 段階に選び、粉体塗料については静電焼付塗装で、溶液型塗料についてはスペレイ塗装によった。膜厚およびピンホール数の大小を測定した。（表-1）

但し実際の膜厚は、目標膜厚より厚い場合があった。

表-1 塗装の種類および膜厚とピンホール数の測定結果

塗 料 の 种 類	塗料物性試験値 (JIS K 5400)	目標膜厚 80 μ ( ブラスト処理 ) 150 μ ( ブラスト処理 ) 250 μ ( ブラスト処理 ) 150 μ ( 化成処理 )	膜厚 ( μ ) と ピンホール数 の 多 少							
			硬化 びほん 目 付 着 性	測定位置 フ シ フシとフ シとの間	フ シ フシとフ シとの間					
1 粉体エポキシ樹脂	酸無水物	静電塗装 2 H 100/100	硬化	120 (○) 80 (○)	150 (○) 130 (○)	290 (○) 210 (○)	150 (○) 130 (○)	210 (○) 150 (○)	210 (○) 130 (○)	210 (○) 130 (○)
2 粉体エポキシ樹脂	酸無水物	静電焼装 2 H 100/100				200 (○) 150 (○)				
3 粉体エポキシ樹脂	ポリアミン	静電塗装 2 H 100/100		130 (△) 140 (△)	190 (△) 180 (△)	220 (△) 240 (△)	200 (△) 210 (△)			
4 溶液型タールエポキシ樹脂	アミン	エアスプレイ B 100/100				240 (○) 250 (△)				
5 無機ジンクリッヂ	アルカリシリケート	エアスプレイ 4 H 100/100				330 300				
6 粉体エポキシ樹脂	酸無水物	静電塗装 2 H 100/100		100 (×) 150 (×)	230 (△) 250 (△)	710 (○) 500 (○)	120 (△) 250 (△)			
7 粉体エポキシ樹脂	ポリアミン	静電塗装 H 100/100				200 (△) 250 (△)			200 (△) 250 (△)	
8 粉体エポキシ樹脂	酸無水物	静電塗装 H 100/100				150 (×) 110 (×)			150 (×) 110 (×)	
9 粉体エポキシ樹脂	特殊硬化剤	静電塗装 2 H 100/100				110 (△) 100 (△)			110 (△) 100 (△)	
10 溶液型タールエポキシ樹脂	ポリアミド	エアスプレイ H 100/100				150 (○) 100 (○)	290 (○) 230 (○)	150 (○) 100 (○)		
11 溶液型タールエポキシ樹脂 (MID含有)	ポリアミド	エアスプレイ F 100/100				230 (○) 180 (○)			230 (○) 180 (○)	

( ) ○ ピンホールなし  
△ ピンホール 20 以内  
× ピンホール多数

### 3.3 試験方法

#### 1) 塗装鉄筋の温塩水中浸漬試験

塗装鉄筋（長さ25cm）を50℃の3%食塩水中に、300日間にわたって浸漬し、腐食調査を行なった。

#### 2) 鉄筋コンクリート供試体の腐食促進試験

下記の示方配合で、塗装鉄筋を含むコンクリート供試体（寸法15×15×50cm、かぶり厚さ5cm）を製作し、いずれもひびわれ（ひびわれ巾0.1～0.2mm）を導入した。

粗骨材最大寸法 mm	スランプ cm	空気量 %	W/c %	S/a %	単位量 kg/m <sup>3</sup>			
					W	C	S	G
25	8	1.5	55	43.2	160	293	826	1090

海上スプラッシュゾーンの腐食環境条件を設定した腐食促進試験機を用いて100サイクル（200日間）まで腐食試験（右表）を行ない、終了時に解体調査を行なった。

#### 3) 耐衝撃性および曲げ加工性に関する試験

落下重錘試験（デュポン式衝撃試験機による）および、ベンディングマシンを用いた、鉄筋巻き付け屑曲試験を行なった。

#### 4) コンクリートとの付着強度試験

「引抜き試験による鉄筋コンクリートとの付着強度試験方法」（日本工業規格案）に準じて行なった。

### 4. 実験結果

#### 4.1 塗装鉄筋の耐食性に関する試験結果

##### 1) 温塩水中浸漬試験結果

塗料の種類、下地処理、膜厚が異なる各塗装鉄筋の温塩水中浸漬試験結果を示す（表-2）。

(i) 塗装鉄筋の耐食性は次のようにあった。

・溶液型タールエポキシ樹脂塗装（No.4、10、11）は膜厚が250μであってもふくれを生じ、ほぼ全面で塗膜が劣化して腐食が全面に広がった。

・粉体エポキシ樹脂塗装（No.1、6、7）は、膜厚80μでは、ふくれや点錆が生じたが、150μおよび250μでは異常に良好な耐食性を示した。

・粉体エポキシ樹脂塗装の一部（No.2、3、8）は、膜厚150μでも一部に腐食が生じた。

他方、無機ジンクリッヂ塗装鉄筋では、亜鉛の全面的な溶出（白さび）が観察された。

このように、塗装鉄筋の耐食性は、塗料の種類を膜厚とによって大きく異なっており、粉体エポキシ樹脂塗料で150μ以上の膜厚が必要であった。

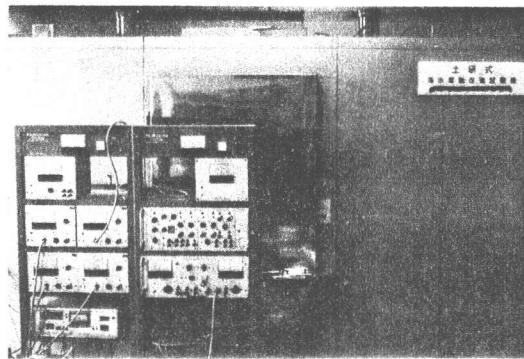


写真 鉄筋コンクリート用腐食促進試験機（土研式）

3%食塩水中 浸漬(12時間)	高温 湿潤中 放置(12時間)	低温 乾燥中 放置(24時間)
50℃	50℃、98%RH	12℃、25%RH

1サイクル(48時間)

腐食促進試験機の設定条件

表-2 50℃、3%食塩中の塗装鉄筋の外観(300日)

下地処理	塗装鉄筋の表面観察結果			
	80	150	250	150
1 粉体エポキシ樹脂 (液無水物)	サビ(赤茶色、数点) フクレ、サビ(数点)	○	○	○
	○	○	○	○
2 "	サビ(赤茶色、数点) フクレ、サビ			
3 粉体チールエポキシ樹脂 (ポリアミン)	フクレ、サビ(数点)	サビ(数点)		サビ(数点)
	フクレ、サビ	サビ		サビ
4 溶型タールエポキシ樹脂		フクレ、サビ(赤茶色)		
		フクレ、サビ(全面)		
5 無機ジンクリッヂ		白鉛、(地崩一部露出)		
		白鉛、(全面)		
6 粉体エポキシ樹脂 (液無水物)	サビ(数点) サビ(数点)	○	○	○
	○	○	○	○
7 (ポリアミン)	○			○
	○			○
8 " (液無水物)	サビ(赤茶色、数点) サビ(数点)	サビ(赤茶色、数点) サビ(数点)		サビ(赤茶色、数点) サビ(数点)
9 (特殊硬化剤)	フクレ、サビ(数点)	フクレ、サビ(数点)		フクレ、サビ(数点)
	フクレ			フクレ
10 溶型タールエポキシ樹脂	フクレ、サビ フクレ、サビ(全面)	フクレ、サビ フクレ、サビ(全面)	フクレ、サビ フクレ、サビ(全面)	フクレ、サビ フクレ、サビ(全面)
11 (MIO含有)	フクレ、サビ フクレ、サビ(全面)	フクレ、サビ フクレ、サビ(全面)		フクレ、サビ フクレ、サビ(全面)

上段：水面部分の鉄筋表面 下段：水中部分の鉄筋表面

表-3 腐食促進試験結果(鉄筋コンクリートの解体調査結果)

	塗料の種類	目標膜厚 $\mu$	塗装鉄筋の外観	発錆面積( $\text{cm}^2$ )				塗装鉄筋の分極抵抗 $\text{k}\Omega$
				1	2	3	平均	
1	粉体エポキシ樹脂(酸無水物)	80	フジにそってサビ(赤茶色、点サビ)が発生	2.6	3.0	4.2	3.3	0.5
		150	塗膜のつやは失なわれたが、サビはなし	0	0	0.2	0	140
		250	"	0	0	0	0	200
		化成厚50	"	0	0	0.3	0.1	164
3	粉体タールエポキシ樹脂	150	フジにそってサビ(点サビ)が発生	2.4	2.4	2.6	2.5	10
5	無機ジンクリッヂ	150	全面にわたって鉄鉱の溶出(白サビ)があり、一部に地脚が露出している。	0	0	1.0	0.3	-
6	粉体エポキシ樹脂(酸無水物)	150	塗膜は健全でありつやも失なっていない。	0	0	0	0	142
7	(ポリアミン)	150	"	0	0	0	0	152
8	(酸無水物)	150	フジにそってフクレおよびサビ(赤茶色)有り、一部にハガレ生ず	6.4	8.4	8.6	7.8	0.38
10	溶液型タールエポキシ樹脂	150	広い面積にわたって塗膜は変色し、発錆面積に大きい。	10.2	12.4	16.4	13.6	0.14
		250	"	10.0	13.8	14.0	12.6	0.16
1 (4ヶ所) 10	粉体エポキシ樹脂(酸無水物)	150	塗り残し部分の近傍にもサビ、しかし広がりは小さい。	16.0	16.0	16.8	16.2	-
		150	塗り残し部分の広い周辺の塗膜まで変色しサビによるハガレが生ず	18.2	19.4	20.6	19.4	-

全表面積: 240.0 cm<sup>2</sup>

## 2) 鉄筋コンクリート供試体の腐食促進試験結果

塗装鉄筋の解体調査結果を示す(表-3)。同条件下での無塗装鉄筋の場合は、ひびわれを中心にその周囲に赤茶色の錆が拡がり、深さ 0.4 ~ 1.6 mm の多数点の孔食が観察されており、温塩水中浸漬試験よりも、供試体を用いた乾燥サイクル試験がより腐食条件として厳しいことが確かめられた。

(i) 鉄筋コンクリート中においても、塗装鉄筋の耐食性には優劣があり次のように分類できた。

・溶液型タールエポキシ樹脂塗料(No.10)は膜厚が 150、250  $\mu$  であっても広い面積にわたって赤茶色腐食をしており、一部には(フジ)では、はがれが顕著であって、すでに耐食性は失なわれているといえる。

・粉体エポキシ樹脂塗料(No.1、6、7)の場合膜厚が 80  $\mu$  では、フジに沿って一部に発錆した。膜厚 150  $\mu$ 、200  $\mu$  では、塗装面のつやは失なわれている場合があるが、鉄筋との付着力は失なわれておらず、塗膜も健全であり、発錆もなく、良好な耐食性を示した。

・粉体エポキシ樹脂塗料の一部(No.3、8)では、膜厚 150  $\mu$  で点錆平均数個が生じた。しかしピンホールを中心とする腐食伸積は小さく塗膜が強じんためか、腐食の周囲への広がりも小さかった。

塗装鉄筋の耐食性は、温塩水中浸漬試験結果と同様、塗料の種類と膜厚(少なくとも 150~200  $\mu$  を必要とする)によって左右されおり、それらに比べて下地処理の影響は小さい。

(ii) 故意に塗り残した鉄筋では、いずれもその塗り残し部分から、赤茶色錆が拡がった。溶液型エポキシ樹脂塗料の場合、この拡がり面積が大きく、塗膜がはがれ、変色しているが、粉体型エポキシ樹脂塗料の場合は、この劣化の度合は小さい。しかし塗り残し部分の腐食は進行している。このため、塗装鉄筋の耐食性を向上させるためには塗り残し(きずやピンホールを含めて)を絶対にする必要がある。

## 4.2 耐衝撃試験結果と曲げ加工性に関する試験結果

表-4 帯衝撃性および曲げ加工性試験結果

下地処理	耐衝撃性試験結果(耐衝撃値 $\text{k}\cdot\text{cm}$ )						曲げ加工性試験結果(曲げ直径)
	150	250	150	80	150	250	
塗料の種類	プラスト処理	化成処理	プラスト処理	化成処理	化成処理	化成処理	化成処理
1 粉体エポキシ樹脂(酸無水物)	3.5	1.5	3.5	4.5D	4.5D	6.1D	×
2 " "	3.5			4.5D			
3 粉体タールエポキシ樹脂(ポリアミン)	2.5	1.5	2.5	4.5D	4.5D	6.1D	×
4 溶液型タールエポキシ樹脂	5			×			
5 無機ジンクリッヂ	5.0			×			
6 粉体エポキシ樹脂(酸無水物)	2.5		2.5	4.5D	4.5D	6.1D	×
7 "(ポリアミン)"	2.5			4.5D			×
8 "(酸無水物)"	2.5			4.5D			×
9 "(特殊硬化剤)"	1.5			×			×
10 溶液型タールエポキシ樹脂	5			×			×
11 " (MIO含有)"	5			×			×

Dは鉄筋の直径

### 4.3 コンクリートとの付着強度試験結果

表-5 塗装鉄筋のコンクリートとの付着性試験結果

塗装鉄筋と非塗装鉄筋との、引抜き試験結果を比較した。(表-5)

(i) 溶液型タールエポキシ樹脂塗装鉄筋の場合は、いずれも付着強度が小さく、その大きさは、粉体エポキシ樹脂塗装鉄筋の場合に比して、25~30%でしかなかった。

(ii) 粉体エポキシ樹脂塗装鉄筋の場合には、無塗装鉄筋の場合に較べて、付着強度は、低下するけれども、80~90%の付着強度は、保っている。また、膜厚の増加と共に、付着強度が低下する傾向にある。このため、耐食性を向上させるためには、大きな膜厚が求められるが、付着強度の点から150μ以下とすべきであろう。同じ目標膜厚であっても、塗料の種類によって付着強度は異なることも確かめられた。粉体エポキシ樹脂塗装鉄筋の場合には、塗膜自体が引張りに対して強いこと、塗膜の鉄筋素地への接着力が強いこと、しかも、異型鉄筋への塗装であるためなどが、付着強度を著しくは低下させない原因と考えられる。

### 5. まとめ

海洋環境下の鉄筋コンクリートの防食に利用する目的で、新しい塗料を含めて試作した塗装鉄筋について、その耐食性および力学的性質などを、室内的に評価した。(表6)

(i) 塗装鉄筋には、塗装膜厚が厚くなれば、その耐食性は高まるが、逆に加工性やコンクリートとの付着強度は低下するという相反する傾向がある。しかし、塗料の種類、下地処理、膜厚を適切に選択することによって、望ましい性質をもった塗装鉄筋を製作できることが確かめられた。

(ii) 海上の厳しい腐食現象(スプラッシュゾーン)条件を想定した腐食促進試験は、これまでの方法より腐食促進度が高いが、この場合にも、数種類の塗装鉄筋は、優れた耐食性を示した。  
あとがき

室内試験結果をふまえて、現在、東京湾海上(木更津市沖)で、塗装鉄筋を含めた鉄筋コンクリート版の各種防食方法の暴露調査を実施中である。なお、本研究にあたっては、塗料の提供や塗装について、日本ナバガイギー株式会社、大日本塗料株、関西ペイント株、日本ペイント株の各関係各位の御助言と御協力を得た。深く謝意を表する。

参考文献：土木研究所資料、エポキシ樹脂塗装鉄筋の利用に関する研究報告書(1979)

鉄筋のすべり 下地処理	付着応力度(kg/cm²)						最大付着応力度(kg/cm²)	
	2D/1000mm			4D/1000mm				
	目標膜厚μ 80	150	250	150	80	150		
1 粉体エポキシ樹脂(酸無水物)	128	126	96	124	152	160	120	
2 " "	98	98			136		136	
3 粉体タールエポキシ樹脂(ポリアミン)	96				120		122	
4 陶液型タールエポキシ樹脂	32		30		52		48	
5 無機ジンクリッヂ		130				152		
6 粉体エポキシ樹脂(酸無水物)	108		108		156		156	
7 " (ポリアミン)	96		94		134		128	
8 " (酸無水物)	48				88		160	
9 " (特殊硬化剤)	112				136		208	
10 溶液型タールエポキシ		46		40	72	64	70	
11 " (MIO含有)		46			70		112	
(×較) (無処理鉄筋)					a社製鉄筋 b社製鉄筋 a社製鉄筋 b社製鉄筋 b社製鉄筋	145	145 190 180 250 240	

(各3回繰り返しによる平均値を示した。  
コンクリートの圧縮強度は310kg/cm²)

表-6 塗装鉄筋の性能

下地処理	耐食性			コンクリートの付着性			耐衝撃性および曲げ加工性		
	目標膜厚μ		80 150 250	150	80 150 250	150	80 150 250	150	80 150 250 150
	塗料の種類	プラスト処理	化成処理	プラスト処理	化成処理	プラスト処理	化成処理	プラスト処理	化成処理
1 粉体エポキシ(酸無水物)	×	○ ○ ○ ○	○ ○ △ ○	○ ○ △ ○	○ ○ △ ○	○ ○ △ ○	○ ○ △ ○	○ ○ △ ○	×
2 " "	×			△			○		○
3 粉体タールエポキシ(ポリアミン)	×	△ △	△	△ △ △	△ ○ ○ △	△ ○ ○ △	△ ○ ○ △	△ ○ ○ △	×
4 溶液型タールエポキシ	×				×			×	
5 無機ジンクリッヂ	×	△	△	△	○		○	×	
6 粉体エポキシ(酸無水物)	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	×
7 " (ポリアミン)	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	×
8 " (酸無水物)	×		×	×	×	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	×
9 " (特殊硬化剤)	×		×	×	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	×
10 溶液タールエポキシ	×	×	×	×	×	×	×	×	×
11 " (MIO含有)	×		×	×	×	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	×

良好←性能→劣子  
○ > △ > ×